

学位論文及び審査結果の要旨

横浜国立大学

氏名	ONOGWU ELIZABETH ODACHI
学位の種類	博士（学術）
学位記番号	都市博甲第12号
学位授与年月日	平成27年9月25日
学位授与の根拠	学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第4条第1項及び横浜国立大学学位規則第5条第1項
学府・専攻名	都市イノベーション学府 都市イノベーション専攻
学位論文題目	Gender Negotiations: Dialectics and Discourses on Marriage in Contemporary Japan
論文審査委員	主査 横浜国立大学 准教授 松本尚之 横浜国立大学 教授 藤掛洋子 横浜国立大学 教授 齊藤麻人 横浜国立大学 教授 小宮正安 立教大学 教授 松原宏之

論文及び審査結果の要旨

本研究は、現代の日本女性のジェンダー関係をめぐる選択を取り上げ、「家父長制」にもとづく結婚観を前提とする日本社会のジェンダー規範や構造に抗する女性たちの実践を、文化人類学およびジェンダー研究の視点から分析したものである。横浜を中心に、およそ15ヶ月に渡って実施したフィールドワークにもとづく。約100人の女性のライフストーリーを主なデータとし、特に結婚をめぐる近年の現象のなかでも、「晩婚化」「同棲」「生涯独身」「国際結婚」の4つを取り上げている。

本論文は、7章構成となっている。

第一章、第二章は、導入にあたる。第一章では、特に1980年代以降の日本におけるジェンダー関係の変化を踏まえつつ、研究の目的、調査方法、理論的背景が論じられている。家父長制の影響が根強い日本社会において、女性たちがヘゲモニックなジェンダー関係に抗い、より良き生き方を求めオルタナティブな選択を生み出し続けていることを指摘し、それら女性たちの選択を、実践理論をもとに分析することが述べられている。そして、第二章は、日本のジェンダー関係に関するこれまでの研究のレビューに充てられている。英語で発表された過去の研究の論評を通して、日本が婚姻で結ばれた男女関係を前提とした「結婚社会」であることや、結婚の経済的背景をめぐる議論などを示している。

第三章から第六章は、博士論文の本論にあたる。第三章と第四章では、現代日本において、結婚社会に抗する女性たちの実践として、「晩婚化」および「同棲」が取り上げられている。厚生労働省の統計データなどを頼りに近年の晩婚化の傾向を明らかにするとともに、聞き取り調査で収集した語りをもとに、ジェンダー間の不平等に抗し自律的な生き方を求める女性たちの主体的な実践が論じられている。

続く第五章では「生涯独身」を取り上げた章で、30歳代から50歳代の独身女性たちのライフストーリーが取り上げられている。否定的な含蓄を持つ「お一人様」という言葉を用い

つつ、経済的な安定や出産のための結婚を超えて、より良き生き方を模索する女性たちの営みを記述している。

そして、第六章では、1990 年代に顕著となった現象として、「国際結婚」が取り上げられている。特に、「社会移動のゲーム」の概念を援用しつつ、女性たちの国境を越えた実践と、ヒエラルキーの下降／上昇をめぐる関係者の語りや認識を考察している。

最後に七章では、本研究で得られた知見がまとめられ、考察が行われるとともに、今後の課題に言及している。

審査委員会は、日本のジェンダー関係を論じたこれまでの海外の研究を評価しつつ、近年顕著となった結婚をめぐる女性の実践について詳細な聞き取り調査をもとに分析した本論文に対し、一定の民族誌的貢献を認めた。特に、支配と抵抗という単純な図式に陥りがちなジェンダー関係の分析において、家父長制的な構造に抗う女性たちの実践が、新たなヒエラルキーを生み出していく可能性や、国際結婚をした女性とその夫の間の支配と従属をめぐる交渉を取り上げることで、現代日本のジェンダー関係を動的に描き出している点を評価した。以上により、本研究内容は博士（学術）論文として十分に価値があるものと認められ、審査委員全員一致して合格と判定した。

注 論文及び審査結果の要旨欄に不足が生じる場合には、同欄の様式に準じ裏面又は別紙によること。